

## おわりに

地域活動実践センター長 重村 幹夫

### 『SOCIUS』について

本誌「SOCIUS」は禿正宣学長が名づけました。「SOCIUS」とは、ラテン語で「仲間・友」を意味するそうです。この言葉から「societas」という「親交・友愛・絆」を意味する言葉ができ、社会を意味するsocietyという英語が生まれたと言われています。また、SOCIUSという言葉は「分かち合っている・結びつけられた」という意味を持つ形容詞でもあります。当センターが地域と短大を結び合わせることによって、新しい仲間が増え、つながり合い、愛や絆が無意識的に感じられるような「社会づくり」を目指したいという願いが込められているということです。

当センターは生活科学学科・幼児教育学科・音楽学科に設置されていたそれぞれの研究センターを平成18年4月に「地域活動実践センター」に統合して設立されました。「はじめに」でも記しましたが、その目的は、仁愛女子短期大学の建学の精神である「仁愛兼済」を実践するため、本学が保有する知識等の資源を地域社会に提供し、地域社会の発展と文化の向上に資することです。

平成26年度の主な活動として、①公開講座・講習会の開催、②地域の教育活動を支援するための教職員派遣、③本学と森田地区まちづくり協議会との連携、④教職員・学生のボランティア活動の支援、⑤AOSSAの「子育て支援室・相談室」の協力・支援、⑥教員免許状更新講習の開催、⑦機関誌の発行等の事業に取り組みました。

これからさらに本センターが地域に貢献するためには、本学が有している教育資源をどのように活用するかについて、その方策を考えなければならないと思います。そのためにも今後とも、関係者の皆様のご協力とご理解をよろしくお願いいたします。